

大学入試  
実戦国語  
古文・評論

見本



# 評論

## 基礎問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(東海大・文)



この道に心ざし深かりしことは、道因入道並びなき者なり。

七、八十 a になるまで、「秀歌よませ給へ」と祈らんとために、

1 がちより住吉へ月詣でしたる、いと 2 ありがたき事なり。ある

歌合に、\*清輔判者にて、道因が歌を負かしたりければ、3 わざ

と判者のもとに向かひて、まめやかに涙を流しつつ泣き恨みけ

れば、亭主もいはん方なく、「4 かばかりの大事にこそ逢はざり

つれ」とぞ語られける。5 九十ばかりになりては、耳などもお

ぼろなりける b にや、会の時には、ことさらに講師の座に分け

寄りて、脇もとにつぶとそひみて、6 みづはさせる姿に耳を傾

解答・解説 ↓ 別冊 116 ページ

けつつ、他事なく聞ける気色など、7 なほざりの事とは見えざりけり。8 千載集撰ばれし事は、かの入道失せてのちの事なり。亡き跡 c にも、さしも道に心ざし深かりし者なればとて、9 いうして十八首を入れられたりければ、夢の中に 10 来て涙を落としつつ、11 よろこびを云ふと見給ひたりければ、こと d にあはれがりて、今二首を加へて二十首になされ e にくるとぞ。12 しかるべかりける事にこそ。

\*清輔 藤原清輔(一一〇四―一一七七)。平安後期の歌人、歌学者。

(無名抄)

問一 傍線部 a、e の「に」の用法は、それぞれ次のどれに該当するか。記号で答えよ。記号が重複することもある。

イ 動詞の活用語尾

ニ 断定の助動詞

ト 接続助詞

ロ 形容動詞の活用語尾

ホ 打消の助動詞

チ 副詞の一部

問二 傍線部 1 の意味を、仮名交じり三字の語句で答えよ。

問三 傍線部 2 の意味は、次のどれに当たるか。記号で答えよ。

ハ 完了の助動詞

ヘ 格助詞

イ ずばらしい事                      口 感謝すべき事                      八 堪えられない事

二 めったにない事                      ホ やりにくい事

問四 傍線部3と同じ意味を持つ語を、本文中より抜き出せ。

問五 傍線部4を具体的に述べた箇所を、本文中より抜き出し、その最初と最後の三字ずつ（句読点不要）で示せ。

問六 傍線部5の古語としての読み方を、現代仮名遣いで記せ。

問七 傍線部6の意味は次のどれか。記号で答えよ。

イ 歯の抜けた姿                      口 ひどく年をとった姿                      八 水に濡れた姿

二 目が見えない姿                      ホ おいばれた姿

問八 傍線部7の意味は次のどれか。記号で答えよ。

イ いい加減な事                      口 捨てておけない事                      八 当たり前の事

二 はつきりとした事                      ホ 格別な事

問九 傍線部8は何番目の勅撰集か。漢数字で記せ。

問十 傍線部9に漢字を当てるならば、次のどれが適当か。記号で答えよ。

イ 憂                      口 由                      八 有                      二 友                      ホ 優

問十一 傍線部10は誰の所へ来たのか。本文の文章の内容から判断して、その姓名を漢字四字で答えよ。

問十二 傍線部11の意味を漢字二字の熟語で答えよ。

問十三 傍線部12の意味は次のどれか。記号で答えよ。

イ 当然そうあってよい事                      口 叱らねばならない事                      八 それでもかまわない事

二 そうしてあげたい事                      ホ それが当然である事

問十四 『無名抄』の作者と成立年代について、それぞれ次の中から記号で答えよ。

作者                      イ 平康頼                      口 鴨長明                      八 藤原定家                      二 西行                      ホ 慈円

成立年代                      イ 平安中期                      口 平安後期                      八 鎌倉前期                      二 鎌倉中期                      ホ 南北朝

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(甲南女子大・文)



(A) 清少納言は、一条院の位の御時、\*中の関白世を治らせ給ひけるはじめ、\*皇太后宮の時めかせ給ふ盛りにさぶらひ給ひて、人より優なる者と1おぼしめさりたれけるほどのことどもは、『枕草子』といふものに、みづから書きあらはして侍れば、こまかに申すに及ばず。

(B) 歌詠みの方こそ、\*元輔が女にて、さばかりなりけるほどよりは、すぐれざりけるとかやおぼゆる。『後拾遺』なども、むげに少なく入りて侍るめり。みづからも2思ひ知りて、申し請ひて、さやうのことにはまじり侍らざりけるにや。さらでは、いといみじかりけるaものにこそあめれ。

(C) その『枕草子』こそ、心のほど見えて、いとをかしう侍れ。

さばかりをかしうも、あはれにも、いみじくも、めでたくもあることども残らず書き記したる中に、3宮のめでたく盛りに

解答・解説↓別冊118ページ

時めかせ給ひしことばかりを、4身の毛も立つばかり書き出でて、関白殿失せ給ひ、\*内大臣流され給ひなどせしほどの衰へをば、5かけても言ひ出でぬほどの6いみじき心ばせなりけむ人の、7はかばかしきすがなどもなかりけるにや、乳母の子なりける者に具して、遥かなる田舎にまかり住みけるに、\*襖などいふもの乾しに外に出づとて、昔の直衣bこそ忘れねと独りごちけるを見侍りければ、8あやしの衣着て、\*つづりといふもの帽子にして侍りけるこそ、いとあはれなれ。まことに、いかに昔恋しかりけむ。

\*中の関白⇨藤原道隆。 皇太后宮⇨一条天皇の皇后定子。 元輔⇨清原元輔。『後撰和歌集』の撰者の一人。 内大臣⇨藤原伊周。のち、大宰権帥として流された。 襖⇨武官の礼服。 狩衣の代わりにもする。 つづり⇨布切れを縫い合わせたもの。

(無名草子)

問一 次の(ア)・(イ)について、答えをイ〜への中から適切なものを選び、記号で答えよ。

(ア) 傍線部1「おぼしめされたりける」の主語は誰か。

(イ) 傍線部3の「宮」は誰か。

イ 一条院      ロ 中の関白      ハ 皇太后宮      ニ 元輔      ホ 内大臣      ヘ 清少納言

問二 傍線部2は、「何」を「思ひ知りて」か、その内容を説明せよ。

問三 傍線部4〜8の意味として、それぞれ最も適切なものを選び、記号で答えよ。

4 「身の毛も立つばかり」

イ おそれ多くて身が縮むほど

□ 恐ろしくなるほどまざまざと

ハ 恐ろしいほど批判的に

二 おそろしいほど立派に

5 「かけても」

イ いつでも □ 心にかけて

ハ いささかも

二 声をかけて

6 「いみじき」

イ ひかえめな □ 恐ろしい

ハ ゆきとどいた

二 大変美しい

7 「はかばかしき」

イ はかない □ はきはきした

ハ はかどった

二 たのみになる

8 「あやしの」

イ 珍しい □ 粗末な

ハ 不思議な

二 奇怪な

問四 (ア) 波線部 a 「ものにこそあめれ」を (例) にならって、品詞に分けよ。

形容詞 補助動詞

(例) をかしう 侍れ

(イ) 波線部 b 「こそ忘れね」の「こそ」を「ぞ」に変えると「ね」の部分はどう変わるか、その語形を記せ。

問五 二重傍線部「直衣」の読みを平仮名で記せ。

問六 本文は (A)・(B)・(C) の三段に分けることができる。文の続け方として (A) と (B) との関係は次のどれに当たる

か、記号で答えよ。

イ 添加型 □ 同列型 ハ 順接型 二 逆接型 ホ 転換型 へ 補足型 ト 連鎖型

問七 本文中に清少納言の発言した部分が一か所ある。その部分を抜き出せ。

標準問題

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(成蹊大・経)



新しみは俳諧の花なり。古きは花なくて木立こだちものふりたる心地せaらる。\*亡師むしつねに願ねがひに瘦やせたまふもこの新しみの句こまひなり。その端を見知れる人を悦よろこびて、われも人も責めbられし所なり。責めて流行せざれば新しみなし。新しみはつねに責むるがゆゑに一步自然にすすむ地より躰あははるるなり。

\*「名月に禁よもの霧や田のくもり」といふ姿は不易なり。「花かと見えて綿わた島」とありしは新しみなり。

師のいはく、「1乾坤けんこんの変は風雅のたねなり。」といへり。しづかなる物是不変のすがたなり。動ける物の変なり。時として留とどめざれば、とどまらず。2止むるといふは見とめ聞きとむるなり。飛花落葉の散りみだるるも、その中にして見とめ、聞き

解答・解説 ↓ 別冊120ページ

とめざれば、をさまるとその活いきたる物だに消えて跡なし。また句作りに師の詞ことば有り。3物の見えたる光、いまだ心に消えざる中にいひとむべし。また趣向を句ぶりに振り出だすといふ事有り。これみな、その境に入つて物のさめざるうちに取りてすがたを究むる教へなり。句作りに、成るとすると有り。4内をつねに勤めてものに応ずれば、その心の色句となる。内を常に勉つとめざるものは、ならざる故に私意にかけてするなり。

\*亡師むし 芭蕉。名月に。花かと見えて。この二つの句は、いずれも芭蕉の作。伊賀上野の赤坂の無名庵新築の時、芭蕉が門人を招いた折の吟といわれている。「花かと見えて綿島」は、「名月や花かと見えて綿わたはたけ」である。

(三冊子)

問一 傍線部1「乾坤けんこんの変は風雅のたねなり。」の意味に最も近いのは、次のイ〜二の中のどれか。記号で答えよ。

イ 歴史の変遷は俳諧の芽生えを促す。      ロ 四季の変化は俳諧の源泉である。

ハ 社会の退廃は風俗を華美にする。      ニ 世の中の乱れは芸術への逃避を引き起こす。

問二 傍線部2「止むるといふは見とめ聞きとむるなり。」とあるが、どのような方法で見とめ聞きとめるのか。次のイ〜二の中から最も適当と思うものを選び、記号で答えよ。

イ 敏速な動作で      ロ 物理的な手段で      ハ 風雅の念をもって      ニ 私意にかけて

問三 傍線部3「物の見えたる光」の意味は、次のイ〜二の中のどれか。最も適当と思うものを選び、記号で答えよ。

イ 対象を十分に理解することのできた眼光

ロ 対象を照らし出していた光線の残像

ハ 明るい光の中に照らされていた対象の記憶

二 光のように心にきらめいた対象の本質

**問四**

傍線部 4 「内をつねに勤めてものに応ずれば」の意味に最も近いものを、次のイ、二の中から選び、記号で答えよ。

イ 心をいつも謙虚にしてものごとに対すれば、

ロ つねに勤勉な生活をして外部に接すれば、

ハ 風雅の誠を責めて対象に接すれば、

二 私意を確立して対象に接すれば、

**問五**

傍線部 a 「らる」および b 「られ」の意味を、文法的に説明せよ。

**問六**

本文の要旨を三十字以内で記せ。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(青山学院大・文)

解答・解説↓別冊122ページ参照

貫之が馬に乗りて、和泉の国におはしますなる蟻通しの明神の御前を、暗きにえ知らで通りければ、馬にはかに倒れて死にけり。いかなることにかと驚き思ひて、火のほかげに見れば、神の鳥居の見えければ、「いかなる神のおはしますぞ」と尋ねければ、「これは、蟻通しの明神と申して、ものところがめいみじくせさせ給ふ神なり。もし、2 乗りながらや通り給へる」と人の言ひければ、「A 暗さに、神おはしますとも知らで過ぎ侍りにけり。いかがすべき」と、社の\*禰宜を呼びて問へば、その禰宜、3 ただにはあらぬ様なり、「汝、我が前を馬に乗りながら通る。4 すべからくは、知らざれば許しつかはすべきなり。

あま雲の立ち重なれる夜半なれば7神ありとほし思ふべきかは

\*禰宜||神主の下に位する神職。神職の総称としても用いる。

(俊頼髓脳)

問一 傍線部1は、誰が、誰に、「尋ねければ」なのか。文中の語を用いて答えよ。

問二 傍線部2「乗りながらや通り給へる」の解釈として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から選び、記号で答えよ。

イ 馬に乗ったまま通ってはなりません。 □ 馬に乗ったままお通りになりましたか。

ハ 馬に乗っても通ることはできません。 二 馬に乗りつつお通りになりました。

ホ 馬に乗りながらお通りになるべきです。

問三 空欄Aに入れる言葉として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から選び、記号で答えよ。

イ いかかは □ いかで ハ いかでか 二 いかなる ホ いかにも

問四 傍線部3「ただにはあらぬ様なり」の説明として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から選び、記号で答えよ。

イ 神がのりうつつている様。 □ とても狡猾な様。 ハ 何かを期待している様。

二 非常に高貴な様。 ホ 憤激している様。



問五 傍線部4「すべからく」の解釈として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から選び、記号で答えよ。

イ 一般的に      □ おそらく      ハ 絶対に      ニ 当然      ホ なにかも

問六 傍線部5「和歌の道をきはめたる人なり」は、誰が、どういう人だといっているのか。十五字以内で簡潔に説明せよ。

問七 傍線部6「許し給ふ」の動作主(主語)は誰か。文中の語を用いて答えよ。

問八 傍線部7「神ありとほし思ふべきかは」の部分について、後の問いに答えよ。

(1) 傍線部7の大意として最も適切なものを、次のイ〜ホの中から選び、記号で答えよ。

イ 神が通してくれるとよいのに。      □ 神が通る人を見とがめたのだ。

ハ 神がいるとは思ってもよらなかった。      ニ 神に敬意を払わなければならぬのか。

ホ 神のことがいつそう尊く思われることだ。

(2) 次の文章は、この歌についての説明文である。空欄Bには本文中の語を、Cには適切な漢字一字を、それぞれ入れよ。

この歌は、『貫之集』には「かきくもりあやめも知らぬ大空にありとほしをば思ふべしやは」という形でのっている。『貫之集』の形に従えば、四句目の「ありとほしをば」は「Bをば」と「有りとCをば」との掛詞になっていると考えられる。

問九 『土佐日記』は本説話の主人公紀貫之が書いた日記文学である。『土佐日記』の成立年代として適切なものを、次のイ〜ホの中から選び、記号で答えよ。

イ 八世紀前半      □ 九世紀前半      ハ 十世紀前半      ニ 十一世紀前半      ホ 十二世紀前半

発展問題

次のA・Bの文章を読んで、後の問いに答えよ。(東京学芸大)



A 先年下拙句に、

(ア) 猪ぶのしの寝に行くかたや1明あけの月

このけしきのおもしろさに、自賛にて翁へ見せ申し候ふところに、翁しばらく物をも申されず候ふ故、拙者心に、翁の猪の山へ帰るけしきを知られざるやと、重ねてその風情話し候へば、翁申し候ふは、「されば、そのけしきのおもしろき事は、古人も、

(イ) 明けぬとて野辺より山に入る鹿のあと吹き送る萩の下風とよみ申し候へば、しばらく2俳諧の手柄なきやうに存じ候ふ故、句案に及び候ふ」と答へ申され候ふ。これは発句と少し事もちがひ候へども、なかなか「あと吹き送る萩の下風」とよみたるけしきに合はせては、「明の月」と申し出で候はんは、俳諧ににらみたる場の弱く、口惜しく、この句をうち捨て申し候ふすべて古歌など取らんには、ひとしほ風情も情もせめ上げ申したき事に存じ奉り候ふ。されば、「\*今やひくらん望月もちつきの駒」に

存じより候ひて、

(ウ) \*駒まひきの木曾や出づらん三日みかの月

とは申し出だし候ふ。全く取りたる所は、逢坂の歌により候ふ。しかも、その歌にすがらず候ふ。(浪化苑去来書簡)

B 駒まひきの木曾や出づらん三日の月 去来

「今やひくらん望月の駒」といへるをふりかへて、「木曾や出づらん三日の月」といへり。先師曰はく、「この句は算用をよく合はせたる句なり」と、あざけり給へり。(去来抄)

\*今やひくらん望月の駒II『拾遺和歌集』所収の紀貫之の歌。上の句は、「逢坂の関の清水に影見えて」。後文の「逢坂の歌」も同じ。逢坂の関は、山城と近江との国境の逢坂山に置かれていた関所。望月の駒は、信濃国望月(長野県佐久郡望月町付近)から駒ひきの行事のために朝廷に献上された馬。駒II毎年八月、諸国から献上される馬を天皇が御覧になる行事。もと牧場ごとに日が定められていたが、のちに十六日に一定された。

問一 (ア)の句について、次の問いに答えよ。

(1) この句の季節を記せ。

(2) 傍線部1の「明の月」は、夜が明けても空に残っている月のことをいうが、このような月を古語では一般に何と呼ぶか、

その言葉を記せ。

**問二** (イ)の和歌は(ア)の句とどのような点が共通しているか。その共通点を現代語で四十字以内(句読点を含む)にまとめて記せ。

**問三** 傍線部2と同趣旨のことが『去来抄』には次のように記されている。これを参考にして、傍線部2を分かりやすく言葉を補って現代語訳せよ。

和歌優美の上にさへ、かくまでかけり作したるを、俳諧自由の上に、ただ尋常のけしきを作せんは、手柄なかるべし。一句おもしろければ、しばらく案じぬれど、とかく詮せんなかるべし。(「かけり」は、把握・表現が自由清新であることをいう。)

**問四** (ウ)の句について、作者(去来)と「先師」(B文)はそれぞれどのように見ているか、百二十字以内(句読点を含む)で説明せよ。

**問五** A文の「翁」とB文の「先師」とは同一人物をさす。その人名を漢字で記せ。